

# 風土記の丘の花だより<sup>148</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2022年8月20日)

「秋来ぬと 目にはさやかに見えねども・・・」藤原敏行のこの歌がピッタリの季節です。日が上がると猛暑ですが、たしかに朝夕は少しだけ秋めいた風が吹いているような気がします。(おそらく気のせいでしょう)

修復古墳を下りたところのソテツに花が咲いています。花びらもなく、ただただ大



きくて「何じゃこりゃ？」というような花です。細長いのが雄花、丸いほうが雌花です。雄花は60cmほど(もっとあるかも・・・)、雌花は小さめのスイカぐらいの大きさです。たまにニュースなどで、「〇〇年に一度のソテツの花、開花！」なんて言っていますが、そんなことはありません。よく咲きますよ。



古代米を植えている田んぼには様々な雑草が生えています。その一つヒデリコです。漢字では「日照子」、子はオオバコ、タビラコなどのコと同じで小さな草のことです。かんかん照りの田んぼに生えるからこの名前が付いたのでしょうか。線香花火みたいで可愛いですが、農家の方にとっては、憎つくき目の敵でしょう。



この草も水田雑草です。名前はヒメクグです。クグとはカヤツリグサ科の植物によく使われる言葉でカヤツリグサを表す言葉です。(でも、クグガヤツリという草もあります。直訳すると、カヤツリグサカヤツリグサですね。おもしろいですね。)この丸いのが花です。丸いのがいくつも付いているのも生えていて、タマガヤツリという、これも厄介な水田雑草です。



修復古墳から少し西に行った右下のトチノキに実が付いています。かつて、小学校の国語の教科書に「モチモチの木」という教材がありましたが、それに出てくるトチ餅を作る木の実です。この木は植栽されたものです。自生地はもう少し標高が高いところで、沢沿いなどで大きな葉を繁らせて大木になります。今年もたくさんの実が落ちることでしょう。 松下